魅力其の三

「路上の魅力」マンホール蓋

山崎 崇

注目されるマンホール蓋

路上にあるマンホール蓋は、普段何気なく歩いているとあまり意識しないと思う。日本には、約千五百万枚が設置され、一万二千種以上の様々なデザインの蓋は、その土地にゆかりのある人物や名所、名物などがデザインされたり、絵柄から歴史や文化がうかがえたりする。ご当地モノ・文化財・芸術作品としての魅力を感じ、旅の記念に写真に収めるなどしてマンホール蓋を楽しむ人が現れ、「マンホーラー」や「マンホール女子」、「蓋女（ふたじょ）」などと呼ばれている。また、二〇一一年からマンホールナイト、二〇一四年からマンホールサミットといったイベントも継続開催されたり、関連書籍が復刻出版されたりと近年、注目を集めている。

釧路市のマンホール蓋

マンホールカード

注目を集めた要因として外せないのが二〇一六年に配布が始まった「マンホールカード」である。下水道は「楽しい♪」と思ってもらえるように、国や自治体などでつくる広報組織「下水道広報プラットホーム」のプロジェクトチームである「マンホール・エンジョイ・プロモーション」が中心となり、自治体と共同でつくったコレクションカードである。マンホール蓋の写真とともに、デザインの由来や下水道に関する豆知識などが紹介されている。カードの寸法や厚さを統一したり、描かれた題材やテーマを分類化したピクトグラムを表記したりと、集めるのが楽しくなる工夫がされている。「カード型のパンフレット」として無料配布されているが、下水道関連施設や観光案内所などの配布場所を訪れる必要があることも人気の一因になっており、遠方からの誘客に一役買っているカードもある。

マンホールカード

第一弾が二〇一六年四月に28自治体30種類で発行されて以降、四か月ごとに種類を増やし続けている。二〇一七年十二月に第六弾として64自治体66種類が追加された結果252自治体293種類となり、全都道府県が出揃い、累計発行数は約百四十万枚にも上り、この勢いはまだ続きそうだ。

マンホーラーの聖地

自身は、マンホールカードを名古屋市下水道科学館で初めて入手した。館内では下水道のはたらきや下水処理方法を楽しみながら体験し、子どもでも理解できるような工夫がされている。また、屋外には日本各地のマンホール蓋が展示されていて、マンホーラーの聖地とも言われている。

日本独自の文化

一九八〇年後半に当時の建設省が下水道事業のイメージアップなどを目的に、自治体独自のデザインマンホールづくりを提唱したことをきっかけに、日本各地で競い合ってデザイン化を進めるようになったと言われている。滑り止め用の模様のみというのが一般的な諸外国と比較し、豊富なデザインは日本独自の文化であるといっても過言ではない。たまには下を向いて歩き、マンホール蓋から地域の歴史や文化を感じてみてはどうだろうか。

名古屋市下水道科学館における屋外展示